

## V28b すばる観測装置用グリズムの開発

海老塚 昇（通総研）、佐々木 敏由紀（国立天文台ハワイ）、家 正則（国立天文台三鷹）

近年、天文観測装置の分散素子としてグリズムが多く用いられる。すばる望遠鏡観測装置用として可視光線から中間赤外線用の様々なグリズムが開発されている<sup>1-3)</sup>。本講演において可視微光天体分光撮像装置（FOCAS）および近赤外線コロナグラフィック撮像装置（CIAO）用グリズム等の開発状況を報告する。

また、<http://optik.mtk.nao.ac.jp/ebi/ciao.html> や <http://optik.mtk.nao.ac.jp/ebi/focas.html> も御覧いただきたい。

### 参考文献

- 1) N. Ebizuka, M. Iye, T. Sasaki and M. Wakaki, "Development of High dispersion grisms and immersion gratings for spectrographs of Subaru Telescope", *Optical Astronomical Instrumentation*, ed. S. D'Odorico, Proc. SPIE**3355**, 409-416 (1998)
- 2) 海老塚昇・家正則・佐々木敏由紀・若木守明 "すばる望遠鏡観測装置用分散素子の開発 = 深い溝のグリズムおよび immersion Grating の製法 = " *光アイアンス* No.9, Vol.2, 5-11 (1998)
- 3) Noboru Ebizuka, Mosanori Iye and Toshiyuki Sasaki : "Optically Anisotropic Crystalline Grisms for Astronomical Spectrographs", *Applied Optics* **37**, 1236-1242 (1998)